

今井祇園行事【いまいぎおんぎょうじ】



開催場所

行橋市大字今井、大字元永
今井津須佐神社、福島家、浄喜寺、
今井西町ほか地区内各所

開催日

7月15日・7月20日・7月21日
・7月27日・8月1日～8月3日

指定

福岡県指定無形民俗文化財

【芸能の概要】

今井祇園祭は1254(建長6)年、悪疫退散、人畜無災を祈願するために京都の八坂神社を勧請し、翌年悪疫退散の報謝として銚子山鉾を作って祭を始めたことに由来する。その後、1530(享禄3)年、今井祇園の特徴である連歌奉納が加わり、以来今日に至るまでその伝統を受け継いでいる。祭りは「連歌奉納」、「山(山車・だし)」、「八っ撥(やっばち)」が中心となる。八っ撥とは、学齢前の男児の中からくじ引きで神意を伺い、神童を選び奉納することで、勇ましい「ワリャリャアホイホイ」の掛け声の中を神社へ向かう。「二十日祇園」の称がある。

【芸能の特徴】

今井祇園祭は1254(建長6)年、当地に疫病が流行した際に京都の祇園社を勧請し祀ったところ靈験があらたかだったので、翌年から悪病退散の御礼として執り行われるようになったとされる。奉納連歌が正式に祇園祭に繰り込まれるようになったのは、1530(享禄3)年からといわれている。

祭事中巡行を行う山は、かつては曳山が4基、舁き山が2基あった。現在は、今井西町の曳山1基が残っている。「八っ撥」は、昭和9年頃まで3地区から3人の稚児が選ばれていたが、戦争や大干害による中止と復活を繰り返し、現在では、昭和61年に復活した今井西町の八っ撥が奉納されている。奉納連歌は、1530(享禄3)年の正式奉納以来、途絶えること無く続けられている。

【使用する祭具・道具など】

花傘は、1年の日数になぞらえた365本の花串を組み合わせて作られている。中心の心花は1年の月数である12本(閏年は13本)の花串からなる。大幣は心木と呼ばれる八角形の漆塗りの御神木に、中折紙365枚(閏年は366枚)で作られた「大シデ(紙垂)」8本、白米5合づつを中折紙に包んだ「日月」2つ、中折紙11枚と竹で作られた「鏡」を麻緒で括り作製する。

・アクセス

JR九州・日豊本線「行橋駅」下車 車で15分

・周辺の観光

隼人塚古墳、水哉園跡、馬ヶ岳城跡・御所ヶ谷神籠石
今川河畔サイクリングロード
夏祭りこすもっぺ(8月)、風鎮祭(9月)
行橋市民文化祭(10月)、行橋産業祭(11月)

・近くの特産品

イチジク、桃、マスカット

